

## 年間第 31 主日 (マルコ 12:28b-34)

理解したことを実行すれば神の国の住民になれる



「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」(12・28) ユダヤ人は守るべき掟が細かくなって、最終的には 613 もの掟を背負っていたと言われています。これでは、「背負いきれない重荷」(マタイ 23・4 参照) と受け取られてもしかたがありません。

掟は、人が、神の望む方向に生きていくためのものでなければなりません。決して、人を縛って、生きづらくするものではないのです。旧約の律法、ひいては現代の教会の掟は、人を守りますが、それは神の望む生き方ができるように守ってくれるものと考えべきでしょう。

そうしてみたとき、イエスの時代の人々は、掟を喜ばしいもの、歓迎できるものと思えなくなっていたのでしょ。律法学者のイエスへの問いは、掟に窮屈になっていた様子がかえります。それに対してイエスは、第一の掟、第二の掟として、すっきりと整理して、示したのです。

あなたがたが神に喜ばれる生き方をするのに、第一の掟はこうである、第二の掟はこれである。この二つがあれば、どんな人でも神に喜ばれる生き方ができるはずだ。イエスはこのように、答えを示したのでしょ。

だんだん年齢を重ねてくると、一日の活動時間は短くなってくるし、できる量も少なくなってきました。一日に四つも五つも仕事をこなして平気な時代がありますが、それがだんだんと三つが精一杯、疲れないで仕事を続けるためには二つが理想的、そういう時期がやって来ます。

荷物を持つのも、かつては買い物袋をたくさん提げて歩くことができましたが、今は「持って二つ」になっているかも知れません。そこでイエスが示された第一の掟、第二の掟は意味深いと思うのです。私たちが生涯にわたって、神に喜ばれる生き方を続けていくために、二つの掟に整理して示してください。

どんなに歳を重ねても、少ない荷物しか持てなくなったとしても、背負っていけるように、第一の掟、第二の掟に整理して、示してくださいではないでしょうか。もちろん能力や年齢に応じて、第一の掟にたくさん詰め込むことは可能です。第二の掟も幅広く実行可能です。

イエスは、すべての人が神の喜ぶ生き方を選べるように、掟をシンプルに示してくださいました。いわば、両手に握りしめられる掟を授かったのです。私たちは時々、「重荷になるものを子や孫の世代に残したくない」と考えがちです。どうでしょうか、イエスの考え方は、私たちの心配を取り除いてくれるのではないのでしょうか。

一つ、気になる朗読箇所があります。「イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、『あなたは、神の国から遠くない』と言われた。」

(12・34) どうして「遠くない」と言ったのでしょうか。中田神父は、「答えを示したのだから、ただ理解するだけで終わらず、それを生きていきなさい」と仰っているのだと思います。同じことは、私たちにも求められていることです。